

## 令和7年度第1回平塚市在宅医療介護連携推進協議会会議記録

日 時 令和7年7月31日（木） 14時00分～15時30分

場 所 平塚市役所本館 619会議室

出席者

○ 委員11名

内門委員、児玉委員、三觜委員、望月委員、升井委員、小村委員、稲瀬委員、遠藤委員、江成委員、古川委員、石原委員

○ 事務局5名

田中福祉部長、五島地域包括ケア推進課長、鈴木医療・介護連携推進担当長、宮下主査、阿部会計年度任用職員

○ 平塚市在宅医療・介護連携支援センター3名

石井氏、樋口氏、泉谷氏

開 会

1 委嘱状交付

2 福祉部長あいさつ

3 委員自己紹介

4 会長及び副会長選出

5 審議事項

○ 定足数充足及び傍聴人なし

<以下、進行は会長>

○ 審議事項（1）高齢者よろず相談センターと医療機関等の連携について

<事務局>

資料1に基づき、説明を行った。

◎ 意見・質問

<会長>

高齢者よろず相談センター側からの御意見や御要望、三師会からの御希望などを伺いたい。

<委員>

サポート医との連携というところでは、受診困難な方などで時々対応させていただいている。また、広報誌の配架のお願いや、高齢者よろず相談センターの周知を含めてポスターの掲示などもお願いしている。

課題を抱える高齢者との関わりが複雑になってきているが、関係機関とどのような対応をしていくかというところで、相談する時間帯やどのように相談を投げかけ、支援に繋げていくかについて、忙しい先生方との関わりの中で、相談のタイミングを逃してしまう時がある。

<会長>

実際、サポート医の先生にお願いして断られたことはあるか。

<委員>

受診拒否等の相談や介護保険の意見書の作成等で断られることはほとんどないが、訪問や往診ができない先生もおられるので、やはりその時は往診してくださる先生に偏ってしまうことがある。

<委員>

私共の高齢者よろず相談センターでは医療機関未受診の方が多く、中々医療機関の受診につながっていないということが一つの課題となっている。

<会長>

医師会から高齢者よろず相談センターとの関わりという点で、個人的なところではあるが、認知症初期集中支援事業で高齢者よろず相談センターと認知症初期集中支援チームというものが、毎月一回認知症初期の方等を対象に選定会議を行っている。

<委員>

資料を見ていて、歯科医師会との関わりが薄いと見ているが、各高齢者よろず相談センターから講師の依頼があれば、こちらの方で派遣して対応したいと考えている。

平塚歯科医師会では、毎年12月頃に口腔機能の向上セミナーというものを行っており、地域包括ケア推進課に各高齢者よろず相談センターに連絡してもらい、希望する方を集めている。これからも高齢者よろず相談センターの方との連携を進めていきたいと思っている。

<委員>

薬剤師会としては、高齢者よろず相談センターとの一番の関わりとしては講師の依頼で、個別会議の方には中々参加することが少なく御迷惑をおかけしているが、今後は色々な方と個人の患者さんのところに一緒に訪問できれば、より良い関係性が築けるのではないかと感じている。

## 5 審議事項（2）ひらつか在宅介護生活サポートガイドについて

<事務局>

資料2に基づき、説明を行った。

◎ 意見・質問

<会長>

まず、システム会議の方から順番に現在のサポートガイドの活用状況について、実際に活用して良かった、こうした方が活用しやすいなど御提案等ありましたら伺いたい。

<委員>

「サポートガイドを知っていますか」という問いに対するアンケートの回答が、居宅介護支援事業所の中で71.2%というところは、ちょっと低く感じ、活用自体もやはり低くなっているという印象を受ける。実際に使用するタイミングは難しいと個人的にも思っているところだが、このサポートガイドの一番後ろのページのチェック部分は活用しやすいので、もっと普及させ事例を通して使い方を学んでいくように、上手く活用できたらと考えている。

<委員>

訪問看護での活用状況としては、4割程度ということになるので、私共も事業所内で元々独自

の ACP やお看取りのパンフレットを作成して利用しているが、このサポートガイドが発行されてからは、ケアマネジャーさんや先生と連携するにあたり、共通の認識がしやすいと、事業所内でも話し合っただけサポートガイドの方を活用させていただいている。

病院の方から退院時に説明してくださっていると思うが、やはり退院する時の気持ちと、実際に在宅で過ごして療養が長くなってくると気持ちに変化したり、状態によっては受け入れができていない部分もあり、都度説明や訪問看護の方で寄り添うことが必要だと思っている。

今後目指すところや課題としては、ACP を本当に元気なうちから市民に周知するということに尽きると思う。

<委員>

サポートガイドの作成に関わっていないので、客観的に話をさせていただくと、具体的なことが欠けていると思って見ている。

例えば、サポートガイドの1番後ろ、最期を迎えた時の状態、顔色が悪い—どうしたらいいか、胸、肩が動いていない—それはどこでわかるか、その時どうしたらよいか。もし、介護員が入った時に、息がなかったらどこに連絡すればよいか、看護師がいない時はどうしたらよいか、どの医師に連絡するのか、といったところがもう少し明白になっていればいいと思ったが、それを説明するということであるなら、それでいいのかとも思った。

なぜ在宅で看取ることが難しいのかという一つの原因として、そう決めていても、実際に痛い、苦しい、助けてと言われると家族は救急車を呼んでくださいとバタバタしてしまう。こういう時にきちんと話ができているのか、痛みについて説明ができているのか、と思うことが多いので、この辺についてはこれからの課題だと考えている。

<委員>

長年この協議会に参加させていただいているが、このサポートガイドは他の市町村を参考にして、皆さん工夫して非常に丁寧に作り上げたもので、この他にもエンディングノートもあつたりして、いいものが揃って対応できていると思う。

病院としてサポートガイドは使いやすく、ページをめくると、かなり踏み込んだ感じになっており、家族に聞かれた時に実際こんな感じでいきますよって説明して、最後のページでは具体的に最期はどんな感じなのかということがわかるようになっている。病院はこういったものが非常に使いやすいと思っている。

今後 ACP を市民に周知したいということが一つの大きな課題だと思うが、それに関してサポートガイドを活用するという観点で、この1ページ目はそれに馴染む内容であると思うので、この最初の情報だけで平塚版のエンディングノートに誘導して、少し人生の最期について考えてみませんかという形に繋げると、一般の方には入りやすいのではないかと感じた。

<委員>

こちらの高齢者よろず相談センターでは、看取りというところまでの対応ケースはほぼない状態で、活用するケースは今のところはない。

<委員>

こちらでは、昨年度1件ケアマネジャーの支援として、お渡しさせていただいた。

<会長>

では、審議事項（２）は、これで終わりにします。

6 報告事項（１）平塚市在宅医療・介護連携支援センター運営について

<平塚市在宅医療・介護連携支援センター>

資料３－１～資料３－３に基づき、説明を行った。

◎ 意見・質問

なし

6 報告事項（２）平塚市高齢者福祉計画（介護保険事業計画〔第９期〕）の進捗状況について

<事務局>

資料４に基づき、説明を行った。

◎ 意見・質問

<会長>

今の報告を受けて、何かお気づきの点等がありましたら、お伺いしたい。

<委員>

「ひらつか安心ファイル」について、配布が遅れているという報告があり、今後は周知が課題ということが分析として挙げられているが、安心ファイルとはどういうもので、配布が遅れている状況の背景には、どのようなことがあるのか。

<事務局>

この安心ファイルは、利用者の自宅に置いていただき、御本人のバイタルや多職種の方々がそこに利用者の生活、介護、医療の状況等を書き込んでいくものとなっている。

お尋ねのその配布数が今回目標に対して遅れているということに関しては、安心ファイルを配布している事業所の方にアンケート形式で聞いているため、アンケートの回答数が実際かなり少なく、それで数を割り出していくと結果として少ない数になってしまっているという状況がある。

<委員>

安心ファイルは、昔から使われている連絡ノートから少し進化しているようなものか。

<事務局>

事務局としては、デジタルにするということも考えられるが、どのように共有するのかということが課題であり、現在のところはアナログで行っている。

<会長>

それでは報告事項（２）については、終わりにします。

6 報告事項（３）平塚市高齢者福祉計画（介護保険事業計画〔第１０期〕）策定に向けた調査について

<事務局>

資料5に基づき、説明した。

◎ 意見・質問

なし

7 その他（1）今後の予定について

<事務局>

次回の開催は11月中旬頃。

オンライン開催

◎ 意見・質問

なし

閉会

以 上